

加賀市地域医療審議会（平成29年度第4回会議） 会議録

日時：平成30年2月14日 午後7時30分開会

出席委員：太田(孝)委員、大中委員、河村委員、菊知委員、久保委員、敷田委員、原委員、前川委員、松下委員（50音順）

<会議の概要>

1. 開会

○開会あいさつ 河合副市長

皆様こんばんは。本日もお忙しい中、ありがとうございます。2月7日に開催を予定していたところを大雪に見舞われまして、このような形で急遽変更させていただきましたことを、まずはお詫び申し上げます。今回の雪は大変ひどく、被害に遭われた方々がいたのではないかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

今回が最終回でございまして、二年間の審議会で、初めに市長から諮問をさせていただいた三つの項目につきまして、市長に審議会の答申案としてお戻しいただく、ご提言をまとめていただく会になります。前回の会議で、素案をご協議いただきまして、また、「地域医療を守る取組について」をご議論いただきました。そういったご議論を含めまして、お手元の資料にある見え消しの状態になっております。従いまして、今日の議題としては一つでございまして、「加賀市の地域医療の充実を図ることに関する答申書」の案をおまとめいただくこととなりますので、よろしく願いいたします。

2. 議事

松下会長 それでは議事に入ります。皆様大変ご苦労様です。議事の(1)「地域医療の充実を図ることに関する答申書（案）について」です。前回の会議におきまして、素案を提示いただきご意見をいただきました。また、大項目4の(3)地域医療を守るための取組については、前回の審議会で説明され、ご意見を伺いました。その内容を踏まえて、事務局で追加修

正されたものです。資料について、事務局より説明願います。

議事（１） 地域医療の充実を図ることに関する答申書（案）について

事務局説明 **資料 1-1** 加賀市の地域医療の充実を図ることに関する答申書（案）（修正案）

資料 1-2 加賀市の地域医療の充実を図ることに関する答申書（案）（修正後）

<質疑応答>

松下会長 これが私たち審議会からの意見になります。これでよろしいでしょうか。足りない部分やニュアンスの違いなどがありましたら、ご発言をお願いいたします。本日の会議が最後でありますので、まとめたいと思いますので、なるべく具体的な修正点をご指摘願いたいと思います。

私が聞きたいことがありますので、発言させていただきます。6ページの周産期医療の最初の点（・）のところで、別の委員の方が言われたのですが、「市内唯一の分娩施設として、市の産後ケア事業における入院の受け持ちができれば、医療センターのPRにつながる」について、知らない人は分かりにくいのではないかと感じました。具体的なことが頭に浮かばなかったところが、疑問に思ったところです。

事務局（加藤） ご説明をさせていただきます。松下会長が言われたとおり、市の産後ケア事業というものがございます。周知が足りなくて申し訳ないのですが、加賀市の健康課が担当しておりまして、産後の心身の不調により、育児への不安がある産婦さんや、体調を悪くした産婦さんのケアを行う事業でございます。ケアの内容は三種類ございまして、自宅において訪問を受ける訪問型事業、親子ほっとステーションに通所して手助けを受ける通所型事業、24時間加賀市医療センターへ宿泊という形で親子共々お預かりいたしましてケアをしていただく、宿泊型事業がございます。加賀市医療センターでは、産後ケアの中での宿泊型事業を受け持っており、それが加賀市医療センターのPRにもつながるのではないかと思います。宿泊型という言葉を追記する必要があったかと思えます。

松下会長 ありがとうございます。私達も勉強不足なのですが、意味は分かりました。他よろしいでしょうか。

 なければ、私からもう一度質問をしてよろしいでしょうか。

 地域医療を守ることの取組について、素晴らしい文章ですが、10 ページの真ん中部分のページの「涵養」という言葉について、教養があってよいのですが、もう少し分かり易く記載していただけないでしょうか。ホームページなどに載せて、様々な方が見られるはずなので、一般の人が聞いても、理解しにくい言葉だと思います。

事務局（小荒） こちらの言葉は健康づくりに関してや疾病予防に関して、「強要ではなく、無理なく市民に染み渡って自然に出来るように育む」という意味です。医療政策の部分などで使われる言葉なので、この表現を加えました。これまで健康づくりに関して、啓蒙・啓発などといった表現が多かったと思うのですが、市民が主体となり自然に出来るという意味合いも込めたので、もし適切な言葉があればご助言いただきたく、検討させていただきます。

 10 ページ下から五行目の委員会の意見の部分で、点（・）の改行がされていませんでしたので、お詫び申し上げます。こちらの部分については改行させていただきます。

松下会長 他どうでしょうか。

 なければ私からもう一度よろしいでしょうか。10 ページ下部で「市民」が何度も出てくると、「醸成」が二回出てきております。同じページの中に「醸成」が二つも出てくるとは、言葉をもう少し練った方がよいのではないかと感じました。意味はよく分かるとは思いますが、「市民」という言葉が何度も入っており、「醸成」という難しい言葉が二つ入っていると思いました。

事務局（小荒） 明日までに修正させていただいて、会長に点検していただきたいと思

いますので、お願いいたします。

敷田委員

全体の文章が非常に高尚で、なかなか理解しがたいです。地域医療という言葉が、全体として非常に重く押し掛かってきて、私自身改めて地域医療はどういうことだろうと考えております。会長が仰った「醸成」という言葉もなかなか難しいです。いざ説明しようと思うと、難しい言葉ですし、出来るだけ難しい言葉を易しく説明していただけると、ホームページなどに載った際、皆様は分かり易いと思います。一般の者は、文章に慣れていませんから、高尚な文章が出てくると、理解しにくいと思います。

10 ページの真ん中部分に記載されている「医療・介護ニーズを支える人材（医師や看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなどの専門職）が全体的に不足すると見込まれる」、という文章があります。この内容について、数だけではなくて、質についても考えていただきたいと思います。理想的なものを追いかけますと、体裁やハードな面で上手く揃えていくことを一生懸命担っていきますけど、一番肝心なことは、医療の温もりや温かいものが必要なのではないかと、いつも思います。答申書はきちんとしたものを記載しなくてはいけないため、ソフトなことを言ってもいけないのですが、やはり地域医療の根本は、人々が健康で元気な暮らしが出来ることではないでしょうか。医療ももちろん大事なのですが、そのニーズを支える人材が不足することは一番大事なことはないかと思えます。

長くなりましたが、昨年半年間、家族が入院して、加賀市医療センターで医療を受けました。十分な医療でしたけれども、医療や介護について、数字や体裁だけでなく質についても、より深く考えなければいけないのではないかと思います。

太田委員

5 ページの真ん中の少し上の部分で、分娩件数を述べておられて、その後、手術件数と書いてありますと、産科の手術件数と思えてしまいます。最初に総手術件数が何名で、一方、産科における分娩件数が何名と

記載した方が分かり易いのではないかと感じました。一般的には手術件数を記載して、分娩件数も何件ありましたと、書かれた方が理解し易いのではないかと思います。

事務局（加藤） 誤解を受けがちな文章だと思いますので、文面を入れ替えまして、手術の件数、一方、分娩の件数と分けて記載したいと思います。

松下会長 他よろしいでしょうか。

特にないようでしたら、今いただきました修正のご意見について事務局にて修正いたしますが、今日の会議が最後の予定ですので、修正結果の確認については、私に一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。そのようにさせていただきます。市長への答申につきましては、最終の答申書を確認いたしまして、当審議会の会長といたしまして、私から明日の2月15日に市長へ答申する予定です。

以上本日予定していた議事は、現在のとおりです。その他何かご意見ございませんか。

敷田委員 昨年入院してしまして、気付いたことですが、新しくなった加賀市医療センター内の清掃員についてお話を聞いておりましたら、お掃除がしにくい、といった意見がございました。院内が広すぎる意味もありますが、根本的に掃除がやりにくいことを何人かの方が言われました。清掃員が忙しいことや、掃除がやりにくいため、仏頂面で一生懸命にお仕事を済ませていこうとなると、入院中の患者は落ち着きません。入院中の患者は孤独ですから、一言ぐらいお声かけのゆとりがあると、入院していても嬉しいです。清掃員が悪いのではなく、業務が忙しすぎるからだと思います。その辺りを考えていただければよいと思いました。

事務局（加藤） ご意見ありがとうございます。清掃につきましては、委託業務であります。病院の中で働く職員とすれば、いろんな委託事業者の方々につ

いても、全て病院の中の顔とっております。

また、院内は広く、常に人がいるため、業者としては掃除が一番しにくいタイプの建物だと思いますが、清掃員も清掃のプロだと思いますので、その辺をどうしたらよいのかという話し合いを、昨年来、定期的に清掃業者や病院本体とで続けております。

今後も職員を含めてですが、笑顔と挨拶については、さらに周知を続けて、良くなるよう取り組んで参ります。

敷田委員

ありがとうございます。もう一つだけよろしいでしょうか。

看護師の医療と看護の対応につきまして、非常によくしていただいたのですが、看護師にもその人その人の持ち味がありまして、いろんな方がおりました。全体的に若い人は非常にテキパキとしているが、その分高齢者からすれば、寂しい部分がたくさんあると思います。きちんと教育を受けて勤めているとは思いますが、看護師に対して、さらに教育期間を設けていただけると、より良くなるのではないかと思います。

あとは、介護や医療などの高度な技術について、若い人は抜けることなくしっかりと対応してくださいますけど、結局人間らしい温もりが足りない人もいますと感じました。細かいことですが、これは大変大事なことでと思います。高度な医療をしていただいても、一方で気持ちが良くないと、少しも病気は良くならないと思います。

菊知委員

今の敷田委員の意見につきまして、仰るとおりだと思いますが、閉じた環境にいと、どうしても人間らしい温もりが足りなくなる面が、どんどん濃くなっていくと思います。研修を絶えずしていると思いますが、閉ざされた環境に居続けていると、そういう状況に陥ってしまうことは医療の現場ではよくありますが、そういった研修制度も含めて何か上手くいったことなど、お答えできますでしょうか。

事務局（加藤）

菊知委員の仰ったとおり、閉ざされた環境におりますと、これでよいといった考えに陥ります。研修につきまして、加賀市医療センターでは

一人一年に一研修行くことができ、研修には力を入れております。

答申の説明でも申し上げましたが、院内においても患者さんの気持ちに寄り添う研修も行っております。病院は医療を取り扱うところで、命をしっかりと守っていくことが基本でございますが、その上に積み重なるべき思いやりが欠けてしまわないように、研修を続けていきたいと思っております。ありがとうございます。

菊知委員

地域枠の医師を獲得するように県に働きかけていくことを記載されていたと思います。加賀出身の地域枠で入っている方がおいでて、卒業してどうしようかといった状態になっているところですよ。郷土愛に溢れている方が多いですので、絶対に加賀市に戻ってきていただけるように、県に強く言っていただけるとありがたいと思います。

救急システムもすごく、私も地元で診療していて、断られることがなく、しっかり受け入れることとなっているため、切実にありがたいと思っております。

また、収益が上がっており、素晴らしいと感じます。ただ、収益のことばかりに目が行くと、子供の診療や収益部門でない部分についてプレッシャーになってしまうため、ここであえて申し上げますが、採算性が合わない部門を守っていけるのは、公共の加賀市立の病院だから出来ることだと思います。収益が上がることはよいのですが、守るところも考えていただきたいです。

前川委員

私も当委員会に参加させていただきまして、広報や新聞の加賀市に関する記事など、意識して目を通すようにしております。私が知らないだけだったのかも知れないですが、今朝の新聞でAIを活用することや、住宅の補助など、ここ数年で子育てを格段にし易い環境になってきたと思います。私は今後縁があれば、また当委員会に携わりたいと思っており、医療もですが加賀市全体として、新しい取り組みやよいアイデアを皆様と出し合えていたらと思いました。10 ページの真ん中から上に記載されている、「高齢者（65歳以上）数は、ほぼピークに達している

が、後期高齢者（75歳以上）は、今後10年程度は増加していくと推測されている。」の部分で、確かに目の前のことに全力で当たることは当然ですが、私の年代からすると、我々の世代では年金などがどうなるのか不透明ですし、年代間や世代間での格差がないようなものを願いたいと思います。

松下会長

ありがとうございました。他よろしいでしょうか。ないようであれば本日の議事は以上となります。

最後に一言お礼を申し上げます。今年度末をもちまして、当審議会委員の任期は終了いたします。このメンバーでの会議は今回が最後となります。平成28年7月から述べ七回に渡り活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。皆様の協力がありまして、この審議会の目的である市長からの諮問に対する答申をまとめることが出来ました。診療報酬と介護報酬の同時改定が目前となっております。その姿も見えているところですが、どちらも共通するところは、どこに住んでも適切な医療と介護を安心して受けられる社会の実現、すなわち地域包括ケアシステムの構築ということです。委員の皆様におかれましても、地域医療の充実、地域包括ケアシステムの構築に向け、それぞれの立場で今後ともご協力をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。大変ありがとうございました。

最後に事務局から連絡がありますので、お願いいたします。

河合副市長

本日もご審議いただきまして、誠にありがとうございました。今程会長からもありましたように、平成28年7月から七回に渡りこのような審議会の場にお越しいただき、活発なご意見を頂戴いたしまして、本当に感謝申し上げます。おまとめいただいた答申を尊重して取り組んで参りたいと思っております。今日の審議で触れていただきました事項は、大きくは何点かございました。振り返りますと周産期医療につきましては、意見の趣旨を確認させていただきますが、恐らくもっとPRすべきだという話ではなかったかと記憶しております。従いまし

て、先程、事務局からも説明ありましたとおり、加賀市医療センターでは市内唯一の分娩施設でございますし、市の産後事業も実際行っております。件数はまだ増えていませんが、こういった出産からその後の母体ケアまでを一体的に行えるのであると、きちんとPRしていきたいという形で書き直させていただければと思います。もう一つの10ページの部分で、今後のところにつきましては直していきたいと思われ、敷田委員から意見がございました質を向上させていくことは重要な視点だと我々も捉えておりますので、当審議会の御意見として取り入れたいと思っております。

最後になりますが、この審議会ですが、二年を任期としてご議論賜ってきたところでございます。目指すところは、加賀市の地域医療をどのように充実していくのかといったところを、急性期医療機関である加賀市医療センターを中心として、民間の病院の方々、公的病院も国立病院も、また、日々医療を支えてくださっている医師会の皆様、診療所の方々を含め、どういうバランスでこの医療を全体的に押し上げていくのかが一番重要な課題だと思います。国でも動きがある中で、より高度な医療を提供することを求められることもあります。この審議会が始まるきっかけとなりました加賀市の旧病院二つを統合するという話を、その病床の話も含めて削減するという中で、起きた議論でございまして、医療資源を統合する中で医療を充実させていこうといったことで日々病院で取り組んでいるものと思います。

今程申し上げたとおり、社会の流れが早くなり、病院自身も変わっていかねばならない。地域の中でも自分達に課せられた医療をどのように提供していくのかは、全体で考えなければいけない。審議会では正にそういうことを議論いただく場と捉えておりますので、二年という任期は今回を持ちまして終了となりますが、また引き続きそれぞれのお立場でご協力をいただければと考えております。

一番重要なことは、敷田委員や前川委員が仰ったようなことであります。誰のために、何のためにサービスを提供するのか、なぜ質を向上させていく必要があるのか、全ては医療を受けられる患者さんが、

今後どういった医療を受けたいのか、そして、病院を退院した後でどういう生活に戻っていきたいのか、そういったニーズを踏んでこそ、医療がどのようにアプローチするのかなという話が出てくると思いますので、こういった原点を忘れないように、我々もきちんと代弁していきたいと考えておりますので、引き続きご協力の程、よろしく願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。二年間ありがとうございました。

○事務局連絡

- ・会議録（案）は、完成次第送付するので確認をお願いしたい。
- ・二年間の任期のため、今回が最終になり、来年度、改選となる。当審議会の委員選出については、改めまして各団体等にご依頼したい。

松下会長 それでは、会議を終了いたします。進行にご協力いただきまして大変ありがとうございました。二年間本当にありがとうございました。

3. 閉会

午後20時23分閉会